

# 貧困撲滅と 社会的公正のための教育

# 貧困撲滅と社会的公正のための教育 プログラム

- 10:20 イン트로ダクション(廣野良吉氏)
  - 提言書の概要、作成プロセス、問題提起
- 10:40 キーノートスピーチ(ウー・チーン氏)
  - 中国の農村の事例
- 11:40 休憩
- 11:50 研究会メンバーからのコメント
  - 今井麻希子氏(IUCN-CEC) 生物多様性と女性視点
  - 森一彦氏(275研究所) 企業視点
  - 古沢広祐氏(JACSES) 歴史的視点、NGO視点
- 全体討議
- 13:00 終了

# ウー・チーン氏

- 自らの戦争体験、戦争・国を憎んでも人を憎まない  
母の影響 Being a global citizen
- 「和 言+皆」  
穀物 (Food)を食べられることが平和なこと+ みんなで話すこと  
⇒ 調和が生まれる
- 女性のエンパワメント
- 女性である前にまず人間であることの認識
- 「権利」と同時に「責任」があること
- 4つのL = Love, listen, Learn, Laugh
- Change women can change families
- 自立・団結・共有
- SYB = Start Your own Business
- 大事な要素 環境・経済自立・人権・平和・愛・健康
- 発展のための考え方
- Ownership 正しい態度があれば自分を頼り対処力ができる。

# 研究会メンバーから

- 今井麻希子氏 (IUCN-CEC) 生物多様性と女性視点  
Women Caucus @ Rio+20, CBD/COP11 からの事例  
女性たちの場の作り方、学び合いの姿勢  
日本の原発デモに積極的に参加

## 環境的公正

情報が十分に与えられていない (リオ宣言 Principle 10)  
声を挙げる権利が大事

IUCN CEC Love, not Loss 今まで生物の損失を訴えていたが、  
愛することの重要性を訴えるように変化

知識やロジックの重要性よりも感応性を重視するように  
女性がもつ特性 (受容、慈愛、プロセス重視、強さとしなやかさ)

価値観を変える 変わる価値を受け入れるしくみが必要

# 研究会メンバーから

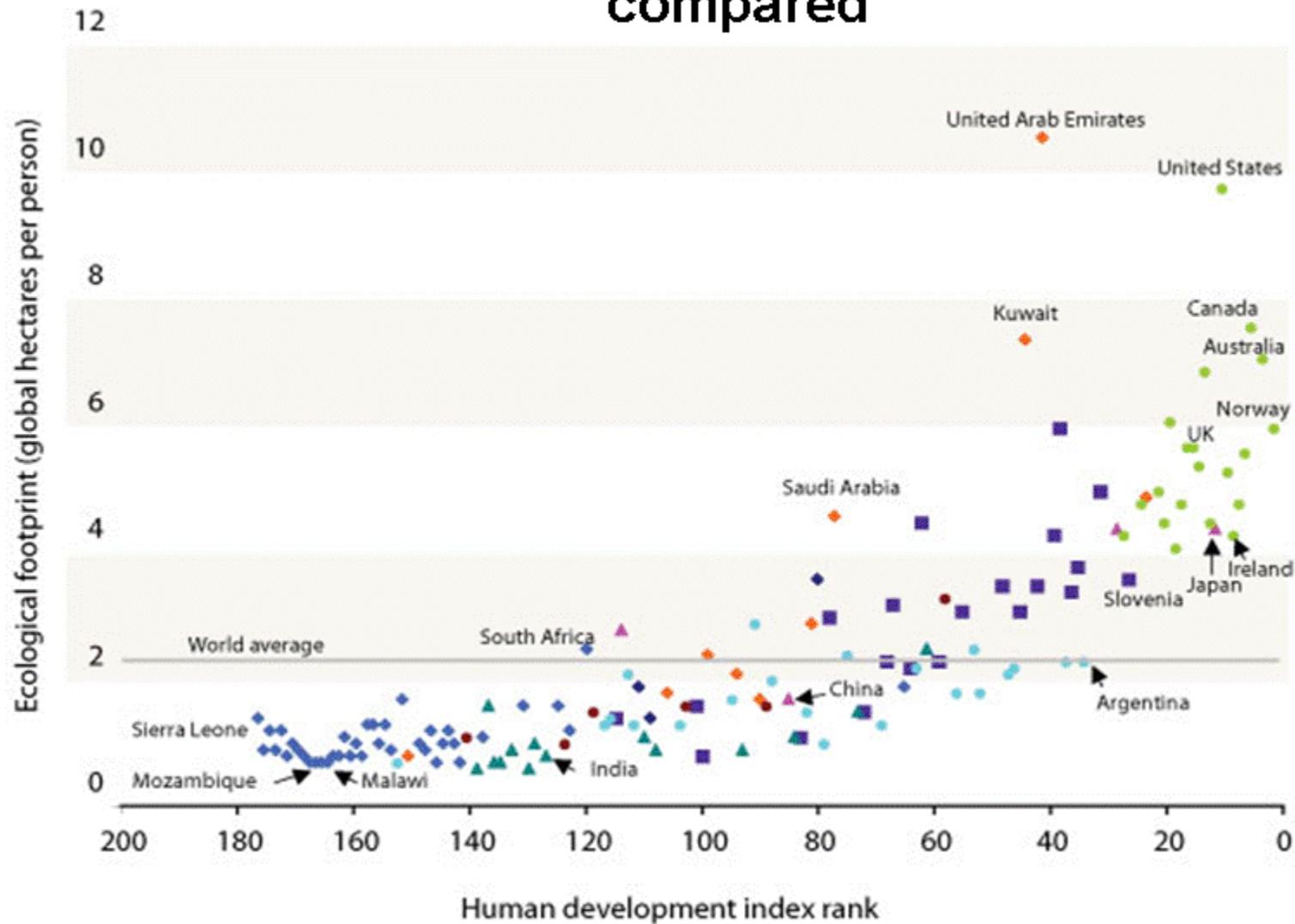
森一彦氏(275研究所) 企業視点

- 企業の影響力は大きい(CMやキャンペーンで世論が変わる、政治も変えられる)
- CSV(Creating Shared Value) の時代へ
  - : 社会的価値をすることで経済的な価値をつくる
  - CSR報告書から「共通価値の創造報告書」へ
- マーケティング3.0
  - : 企業のあり方に過渡期
- 富の分配(寄付や社会貢献、フィランソロピー)
  - ↓
  - 富の生産(ソーシャルビジネス・お金だけではない価値の創造)
- 貧困との関係
  - 貧困者が軍隊に行く傾向 企業が雇用できれば免れる

# 研究会メンバーから

- 古沢広祐氏 (JACES) 歴史的視点、NGO視点
- 100年で人口が4倍に このまま大きくなるのか？
- 地球の限界をいしきすること 格差・ひずみが生じている
- エコロジカルフットプリント
  - 消費と生産のパターンの負荷が高すぎる
  - モノのコスト
- 軍事費の拡大 ODAの10倍が使われている
- 事例 地球にダイエツトキャンペーン
- 自分の食事を変えること×世界とのつながりを考えること
- NGOの主張@Rio+20
  - ・軍事費の縮小
  - ・Human SecurityにSustainabilityを盛り込む
  - ・伝統的知識を尊重する
  - ・政府、企業、NGO(市民社会)3セクターの相互協力

# Human Welfare and Ecological Footprints compared



Source: Global Footprint Network (2006); United Nations Development Programme (2006).]

# *Comprehensive sustainable approach;*

## *micro to macro*

- (1) Products and production process level; such as LCA approach, eco-labeling evaluation, eco-design approach, etc.
- (2) Person and family level: Green Consumerism (consumer action for the environment), etc.
- (3) Enterprise and business level: Eco-products, design and Green Business, etc.
- (4) Industrial organization and relation level: Zero-emission (no waste) model and Eco-industrial complex, etc.
- (5) Regional planning and national level: Eco-city, Sustainable community, Bio-regionalism and to create strong environmental law and regulation system, SEEA; System of Integrated Environmental and Economic Accounting (green GDP as a nickname), etc.
- (6) International level: International treaty, agreement, organizational activities (from NGO level to UN level), international cooperation and aid (ODA), etc.

# 廣野座長による提案(1)

- 教育・マインドセットの重要性
- 多様性があることを認める・尊敬すること
  - 主張すること
  - 解決するためにお互い協力すること
- 政府・自治体・国際社会レベルでの政策による環境づくり、および参画・協働
- 地域社会における教育
  - 地域社会・コミュニティとの連携、地域の伝統・価値観に基づいた支援・活用すべき

# 廣野座長による提案(2)

- 教育が持つ意味：多様性を認めつつ、変革・革新を進める
  - 政府の政策による支援が必要
  - ステークホルダーの中での教育
- 経済的格差を踏まえた、お互いへの支援
  - 地域社会・国内・国際レベルにおいて
  - みんなが豊かになることによって、安全・安心も保障できる

# 廣野座長による提案(3)

- 「貧困の撲滅」・「社会的公正」は永遠の課題
  - 相対的貧困・不公正はある程度認めざるを得ない
- 「何のための貧困撲滅・社会的公正か？」
  - 絶対的貧困・不公正の撲滅
  - このような課題を認識した上での教育
  - やりたくてもできないこともある、限界の認識
- 価値観・行動の変化・変革⇒政策の形で現れる